

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライフルキッズデイサービス八戸中居林			
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 20日		～	令和7年 10月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 18日		～	令和7年 10月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令7年 10月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用されているお子様が通われている学校が、事業所から近いこと。近いことで、滞在時間が長くなり療育の時間、個別対応の時間が多く確保できること。	・ 設置基準は適してはいるが、やはり中学生が多いこともあり狭さは否めない。そこで施設外活動を積極的に取り入れることで、施設内で活動する児童生徒と分かれて活動するように意識しながら取り組んでいること。外部での取り組みを積極的に行っている。 ・ 学校から近いということもあり、時間の確保ができる。	外部（施設外）での活動、取り組みに対して積極的に情報収集をして取り組むこと。 例）地域のお祭りや文化祭参加・近所の公園のゴミ拾い おやつ購入（買い物学習）・防災学習など
2	職員の経験年数が高いこと、また色々な経験をしてきた職員が多いことから、お子様の支援においてあらゆる視点からの支援が可能であること。	小学校1年生から通所されているお子様の支援を通して、出来なかったことが出来るようになっていく。 学校卒業後を見据えた取り組み。例えば、生活面、お仕事、余暇時間の中で自分で決められないお子様に対しては、選択肢を与えることを積極的に意識している。	お子様や、ご家族からの要望を吸い上げて課題の内容や活動に反映するようにすること。例えば中学生会議、小学生会議と同年代同士での話し合いの中で、「こんな活動をしてみたい」「もっとこうすれば良いと思う」といった活発な意見を交わして、貴重な意見をなるべく取り上げられるようにすること。

3	子どもさん達に自主性を満たせるような支援をしていること。	社会の仕組み、ルール、そしてお仕事をしてお金を得するという仕組みについて学ぶべく機会を積極的の取り入れている。 例えばプルタブ取り・缶つぶしや封筒へのラベル貼り ウェス切りなど。生活スキルの観点からは、トイレ掃除・食器用洗剤やハンドソープの詰めかけ、食器洗いなどを意識的に活動の中に取り入れている。	今後、さらに充実を図るために実際の現場での体験が必要と考えている。施設内で出来ていたとしても、施設外に出た途端、自らの力を発揮できなくなる可能性もある。ある程度、免疫をつけることの重要性として、外での体験をどんどん取り入れて、失敗から多くのことを学んで欲しい。
---	------------------------------	---	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職員が配置出来ていない。	人件費の確保が難しい。	専門職の人に対するアプローチの仕方を考えていく。
2	男性職員、若い人材の確保が難しい。今後、この事業所、業界を継続していくためには、人材の確保は重要課題。福祉業界全体の課題ともいえると思われる。	人件費の確保が難しい。また認知度が低いと思われる。放課後等デイサービスには保育士、児童指導員が多いと思われるが、実際、学生さんからは「デイサービス」というと高齢者のイメージが強い。「放課後等デイサービス」自体を知らない人が多い。	アプローチの仕方を考える。 求職している人向けに施設内や、どんな取り組みをしているのか見学できる機会を設けても良いと思われる。
3	設置基準は満たしてはいるものの、中学生以上が多いことから建物が狭く感じる。	予算の兼ね合いもあることから、仕方がない。ハード面ソフト面を満たした適正な物件がなかなか見つからない。	そこで工夫として活動ごとにグループ分けを行い施設外活動を積極的に取り入れること。狭いながらで視点を考え、家庭のような感覚で活動を行う。普通お家の中で、ボールで遊んだり走り回ったりはしないことをマナーとして教えながら対応するなどの工夫が必要と感じる。